

東日本大震災被災地・石巻市の復旧・復興状況と市民の復興実感度の関係に関する研究

東北工業大学 三浦 智秀
東北工業大学 正会員 森田 哲夫

1. はじめに

(1) 研究の背景

東日本大震災から 4 年を経て、被害を受けた多くの地域は着々と復興へと向かっており、最大の被災地である石巻市に着目し、現在の復興状況と市民の復興実感度の関係を明らかにすることが必要であると考えた。

(2) 研究の目的

- 1) 石巻市の仮設住宅居住者を対象に、基盤整備に関連する分野の復興実感度、生活満足度評価を把握する。
- 2) 復興実感度、生活満足度評価の要因を把握する。
- 3) 復興実感度と生活満足度評価の関連を把握する。

(3) 本研究における復旧・復興度の定義

復旧度としてはライフラインの復旧度などによって判断されるが、対象地域である石巻市においては、ライフラインの復旧度は 100% であるため、基盤整備に関連する分野の復興実感度、生活満足度に関する指標を設定する。小林らによれば¹⁾、復興感とは、「震災前の生活満足度に震災後の現在の生活満足度がどの程度近づいているのか」と定義されている。本研究では、復興計画により道路等の社会基盤が整備され、利用に供されることにより復興実感度に影響を及ぼすと考え、基盤整備に関連する分野の復興実感度を把握することとする。あわせて、復興計画の事業には直接影響を受けない生活満足度を把握することとした。

2. 調査の概要

(1) 対象地区の選定基準

東日本大震災において、最大の人的被害があった宮城県石巻市を対象地域とし、渡波地区と大橋地区の仮設住宅居住者を対象に調査を実施する（図-1）。



図-1 調査対象地域（石巻市）

(2) 調査の概要

調査の概要は表-1 のとおりである。

表-1 調査の概要

調査期間	2015 年 11 月 29 日（日）～11 月 30 日（月）
調査方法	訪問配布（不在の場合ポストイング）、郵送回収
調査対象	・宮城県石巻市の仮設大橋団地、仮設渡波第一団地、仮設渡波第二団地 ・世帯の代表者
調査結果	・配布数 312 票 ・有効回収数 109 票（有効回収率 34.9%）

【調査項目】

- 世帯属性**：世帯代表者の性別・年齢・職業、世帯人員、世帯の子ども・学生・高齢者数、震災時の居住地
- 東日本大震災の被害状況**：居住地の浸水被害、自宅の被害
- 復興実感度**（5 段階評価）：1)自動車による移動、2)公共交通による移動、3)個人住宅の確保、4)公営住宅の確保、5)病院・福祉施設の確保、6)教育環境の確保、7)余暇機会の確保、8)働く場の確保、9)地場産業の回復、10)津波への安全性の確保、11)津波からの避難の確保、12)総合評価
- 生活満足度**（5 段階評価）：1)買物の便利さ、2)通勤・通学の便利さ、3)郵便局や銀行の便利さ、4)まちなみや家なみ、5)日あたりや風とおし、6)騒音・振動が少ない、7)ゴミや排水などの衛生状況、8)交通事故の危険性が少ない、9)地区の防犯、10)台風や大雨に対する安全性、11)日頃の近所づきあい、12)地域の活動、13)趣味やスポーツ活動

3. 復興実感度・生活満足度の評価

(1) 世帯属性別の評価結果

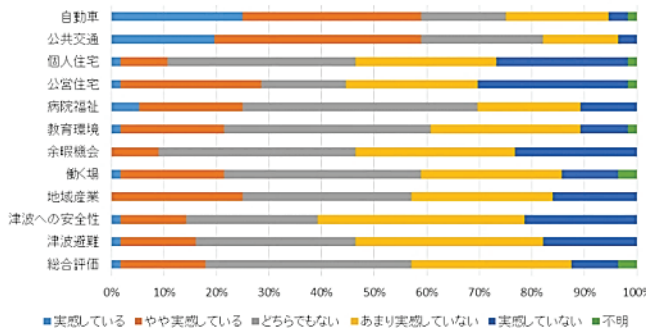
世帯属性別に復興実感度・生活満足度に差異のみられた分析結果（図-2、図-3）を示す。世帯代表者の年齢階層別にみると、70 才未満、70 才以上とも自動車による移動、公共交通による移動など交通基盤整備に関連する項目の評価が高い。公営住宅、病院・福祉に関する指標では、70 才未満で復興を実感していない傾向がある。津波に対する安全性、津波からの避難の確保に関する項目においても、70 才未満は実感していない傾向がある。総合評価をみても、70 代未満の人は復興を実感していない傾向がある。以上より、比較的若い年代で復興を実感しておらず、特に住宅、病院・福祉、防災性に関し課題があると考えられる。

生活満足度に関しては、70 才未満で、事故などの危険性、防犯、近所付き合い、地域の活動について評価が低い結果となった。

キーワード：東日本大震災、復旧、復興実感度

連絡先：〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1 e-mail:ttmorita@tohtech.ac.jp

〈70 才未満〉



〈70 才以上〉

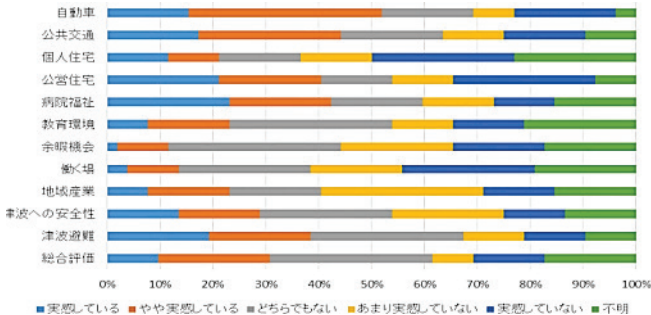
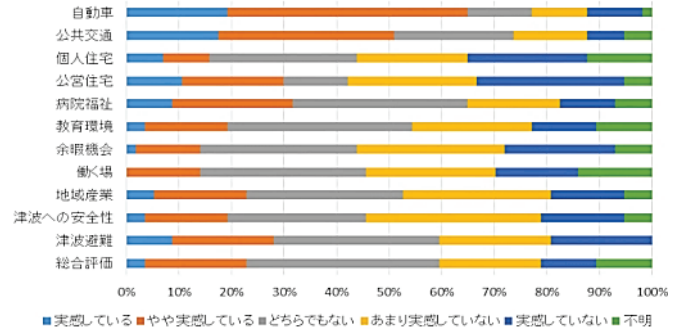


図-2 代表者年齢階層別の復興実感度

〈浸水深 2m 以上〉



〈浸水深 2m 未満〉

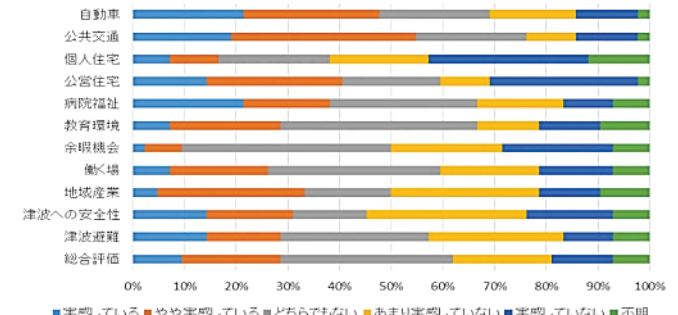
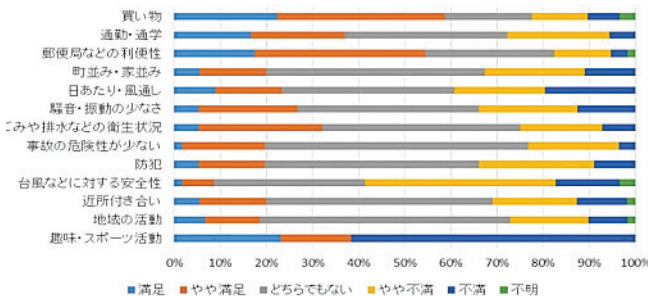


図-4 津波浸水深別の復興実感度

〈70 才未満〉



〈70 才以上〉

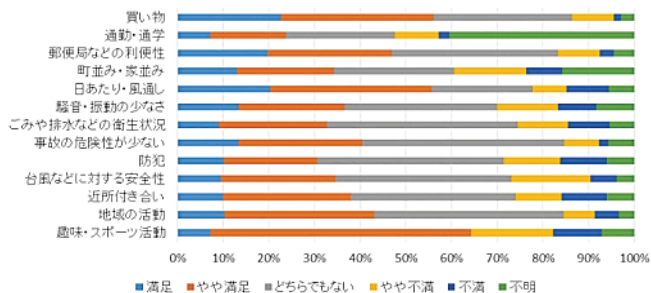
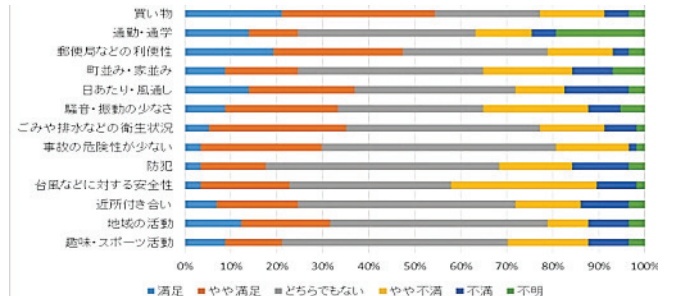


図-3 代表者年齢階層別の生活満足度

〈浸水深 2m 以上〉



〈浸水深 2m 未満〉

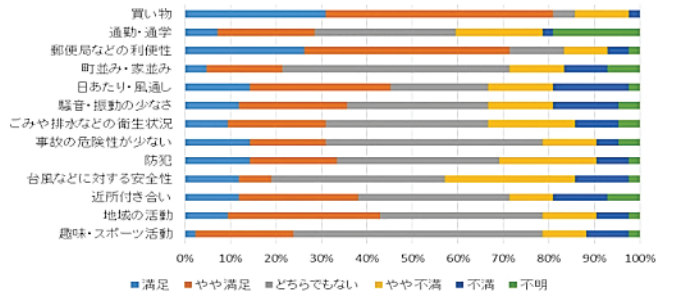


図-5 津波浸水深別の生活満足度

(2) 東日本大震災の被害状況別の評価

調査の被害状況をみると、地区全体で浸水被害があり、住居が全壊しているとの回答が多い。そのため、別途把握した居住地区の浸水深別に分析した（図-4、図-5）。浸水深が 2m 以上の地区では復興実感度が低く、特に、働く場に関する評価が低い。震災後の生活満足度では、ごみや排水などの衛生状況、事故の危険性、防犯、台風などに対する安全性の評価が低く、これらが復興実感度評価に影響を及ぼしている可能性がある。

4. まとめ

本稿においては、石巻市を対象とし、東日本大震災の復興実感度・生活満足度評価に関し基礎的な分析結果を示した。講演においては、復興実感度、生活満足度評価の要因に関する分析結果、復興実感度と生活満足度評価の関連の分析結果について報告する。

参考文献

- 1) 小林秀行，他 4 名：復興の取り組みに対する住民参加の現状と課題—東日本大震災における仮設住宅居住者を事例として—，日本災害復興学会論文集，No.4，2015